

シラバス参照

開講番号	A1-101
講義コード	1000
対象学生	国文1-1*
科目名	仏教学ⅠA
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	2
教職課程関連科目	

副題	仏教の基礎知識——釈尊の生涯とその教え									
授業の到達目標	日本では、学校教育で宗教についてまともに取り上げられていたとは言えない。本講義は世界宗教とされ、日本文化にも深く浸透している仏教について基本から学び、自らの人生を根本から考える(よすが)として学ぶこと。インドに誕生したブッダ(釈尊)の覚り(さとり)に始まる仏教は、その後2500年の歴史を経て、それぞれの時代や地域に応じてさまざまな受け取り方があった。しかし、そこには一貫して、真理(法=ダルマ)が中心にあると言える。真理とは「縁起」「無我」などで表わされるが、その真理が時代と場所を越えて人々の心をとらえ、生きる指針となってきたのである。そのあたりをしっかりと聞いて、自ら人生を考える糸口にすることが受講者に望まれる。									
授業の概要	本講義では、釈尊が示された仏教の基本理念を中心に学ぶ。まず釈尊を生み出したインドの時代背景、思想背景、そしてそのなかから現れ出した釈尊、その生涯をまず概観する。そして仏教の基本的な理念であり、釈尊の覚り(目覚め)の内容とされる「縁起の法」や「無我思想」などを取り上げ、その重要性を考察する。また、それらが現代の人間の生き方にどのような意義を待つかを学ぶ。									
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教学講義についてのオリエンテーション 2. 序説(宗教についての考察、仏教とはなにか) 3. 仏教の特質および歴史的概観 4. 釈尊時代の思想的背景(1) 5. 釈尊時代の思想的背景(2) 6. 釈尊の生涯—誕生、出家—(1) 7. 釈尊の生涯—成道、説法—(2) 8. 釈尊の生涯—涅槃など—(3) 9. 仏教の基本思想—縁起(1)— 10. 仏教の基本思想—縁起(2)— 11. 仏教の基本思想—四聖諦— 12. 仏教の基本思想—三法印— 13. 釈尊滅後の仏教の展開(上座仏教から大乘仏教へ) 14. 仏教思想の現代的意義 15. 定期試験(筆記またはレポート) <p>*ただし、4月、5月、6月にそれぞれ1回ずつ講義時間を「月例礼拝」に充てる。</p>									
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配分 (%)</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講態度、レポートなど</td> <td>20</td> <td>授業をよく聞いて、自発的な受講態度で望むこと。ただ出席しているだけでは、単位が取れない場合もあります。</td> </tr> <tr> <td>定期試験(筆記またはレポート)</td> <td>80</td> <td>上述の受講態度が答案に発揮されていること。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分 (%)	評価の観点	受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で望むこと。ただ出席しているだけでは、単位が取れない場合もあります。	定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。
評価項目	配分 (%)	評価の観点								
受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で望むこと。ただ出席しているだけでは、単位が取れない場合もあります。								
定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。								
授業時間外の学習について	講義の前に参考書を熟読し講義にそなえる。また、講義の後に自分のノートや資料を読み返し、質問があれば講義時にする。 また、龍谷ミュージアム(仏教関連の展示館で特別展もあり)が西本願寺の前にありますが、そこへ一度は行ってみてください。(担当教員によって異なりますが、レポートなどの提出によって何らかの考慮がなされる場合もあります。)									
学生へのメッセージ	必修だから、、などの言い訳ではなく、積極的に聞く姿勢を持って臨んでほしい。また、仏教に関する様々な啓蒙書・参考書が出版されているが、どれでも良いというわけではない。担当教員に相談することが望ましい。									
教科書	特に指定しない。									
参考書	長尾雅人『仏教の源流—インド』中公文庫 上田義文『現代に生きる仏教的人間』本願寺出版社 他に、講義時に適宜紹介する									
京大AL(アクティブラーニング)区分	主に振り返りと対話型授業。									
更新日付	2017/03/11 14:28									

シラバス参照

開講番号	A1-142
講義コード	1036
対象学生	国文3-2*
科目名	仏教学ⅡA
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	2
教職課程関連科目	

副題	浄土仏教思想と親鸞思想の基本理念									
授業の到達目標	3年次では、1年次の仏教学で学んだ仏教思想の基礎的な理解をもとに、大乗仏教の「一切衆生救済」を具体的に開示した浄土仏教の意義を学び、特にその至極とされる親鸞の思想の意義を考察する。 法然や親鸞が特に重視した浄土仏教の基本経典(浄土三部経)とそこに示された仏のこころを受け継いで親鸞に至った道筋について学びながら、親鸞思想の背景や差違を理解する。									
授業の概要	浄土仏教がインドでいかに展開し、それが中国・日本でいかに受容されるか、また、日本において「絶対他力」として完成されるに至るまでを概観する。さらに、法然を先駆者として鎌倉仏教が開花し、その中でもひとときわ光彩を放っている親鸞の思想を生んだ背景として親鸞の生涯についても学んでいく。									
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 大乗仏教の意味 3. 仏の本質—智慧と慈悲のはたらき 4. 浄土仏教の意義 5. 浄土三部経の思想:『無量寿経』(1) 6. 浄土三部経の思想:『無量寿経』(2) 7. 浄土三部経の思想:『観無量寿経』(1) 8. 浄土三部経の思想:『観無量寿経』(2) 9. 浄土三部経の思想:『阿彌陀経』 10. 日本の仏教:奈良・平安時代の仏教 11. 日本の仏教:鎌倉仏教 12. 浄土仏教の伝播(1):インド(龍樹、天親) 13. 浄土仏教の伝播(2):中国(慧遠、道綽、善導) 14. 浄土仏教の伝播(3):日本(源信、法然) 15. 親鸞の生涯 定期試験(筆記またはレポート) *ただし、4月、5月、6月にそれぞれ一回ずつ講義時間を「月例礼拝」に充てる。									
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配分 (%)</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講態度、レポートなど</td> <td>20</td> <td>授業をよく聞いて、自発的な受講態度で臨むこと。ただ出席しているだけでは単位が取れない場合があります。</td> </tr> <tr> <td>定期試験(筆記またはレポート)</td> <td>80</td> <td>上述の受講態度が答案に発揮されていること。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分 (%)	評価の観点	受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で臨むこと。ただ出席しているだけでは単位が取れない場合があります。	定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。
評価項目	配分 (%)	評価の観点								
受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で臨むこと。ただ出席しているだけでは単位が取れない場合があります。								
定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。								
授業時間外の学習について	講義の前に参考書を熟読し講義にそなえる。また、講義の後に自分のノートを読み返し、質問があれば講義時にする。 また、龍谷ミュージアム(仏教関連の展示館で特別展もあり)が西本願寺の前にありますが、そこへ一度は行ってみてください。(担当教員によって異なりますが、レポートなどの提出によって何らかの考慮がなされる場合もあります。)									
学生へのメッセージ	積極的に聞く姿勢を持って臨むこと。また、仏教に関する様々な啓蒙書・参考書が出版されているが、どれでも良いというわけではない。担当教員に相談することが望ましい。									
教科書	特に指定しない。									
参考書	赤松俊秀著『親鸞』(人物叢書)吉川弘文堂 村上達水著『親鸞教義とその背景』永田文昌堂 その他、講義時に適宜紹介する。									
京大AL(アクティブラーニング)区分	主に振り返りと対話型授業。									
更新日付	2017/02/08 13:04									

シラバス参照

開講番号	A1-102
講義コード	T001
対象学生	国文1-1*
科目名	仏教学 I B
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	2
教職課程関連科目	

副題	大乘仏教の基本思想——縁起から空									
授業の到達目標	前期で学んだ初期仏教の展開とそれがいかに大乘仏教と本質的に関係し発展的に展開したかを理解する。 大乘仏教は、釈尊が明らかにされた「縁起の法」が「空」の智慧として脱かれたものであるが、初期仏教が徐々にパラモンの影響の下、実在論へと傾いた方向を修正するものとして登場したと言える。それは、在家・出家の区別を超えてあらゆるものが究りに到達する道を求めるものでもあった。その中心として脱かれたものは菩薩道であり、それは釈尊がもともと意図した道であった。この大乘仏教思想を理解し、それが現代に生きるものにもどのような意義を持つかについて考察し理解する。									
授業の概要	前期の講義で触れた仏教の基本思想を基盤として、そこから展開した大乘仏教について、その背景や経緯を明らかにしながら、特に「空」の理念、菩薩思想、「慈悲」の働きなどについて講義を進める。さらに、日本仏教の精華と云うべき親鸞の他力思想の母体となった浄土仏教についても触れる。									
授業の計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 初期仏教の本質(前期の復習) 3. 初期仏教の展開としての上座部仏教(1) 4. 初期仏教の展開としての上座部仏教(2) 5. 大乘仏教の意味 6. 菩薩思想(願と行など) 7. 大乘仏教の基本的思想(1):縁起から空へ 8. 大乘仏教の基本的思想(2):智慧・慈悲・方便・回向など 9. 大乘仏教の展開:大乘経典の出現とその背景 10. 大乘経典の特徴:仏説としての大乘教典(般若経、法華経など) 11. 龍樹の空思想 12. 天親の唯識思想 13. 浄土教経典に見られる阿彌陀仏の意味 14. 浄土教の大乘的意義 15. まとめ <p>定期試験(筆記またはレポート)</p> <p>*ただし、10月、11月、12月にそれぞれ1回ずつ講義時間を「月例礼拝」に充てる。</p>									
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配分 (%)</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講態度、レポートなど</td> <td>20</td> <td>授業をよく聞いて、自発的な受講態度で望むこと。ただ出席しているだけでは、単位が取れない場合があります。</td> </tr> <tr> <td>定期試験(筆記またはレポート)</td> <td>80</td> <td>上述の受講態度が答案に発揮されていること。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分 (%)	評価の観点	受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で望むこと。ただ出席しているだけでは、単位が取れない場合があります。	定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。
評価項目	配分 (%)	評価の観点								
受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で望むこと。ただ出席しているだけでは、単位が取れない場合があります。								
定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。								
授業時間外の学習について	講義の前に参考書を熟読し講義にそなえる。また、講義の後に資料や自分のノートを読み返し、質問があれば講義時にする。 また、龍谷ミュージアム(仏教関連の展示館で特別展もあり)が西本願寺の前にありますが、そこへ一度は行ってみてください。(担当教員によって違います。レポートなどの提出によって何らかの考慮がなされる場合もあります。)									
学生へのメッセージ	必修だから、、、などの言い訳ではなく、積極的に聞く姿勢を持って臨んでほしい。また、仏教に関する様々な啓蒙書・参考書が出版されているが、どれも良いというわけではない。担当教員に相談することが望ましい。									
教科書	特に指定しない。									
参考書	長尾雅人『仏教の源流—インド』中公文庫 長尾雅人編『大乘仏教』(『世界の名著』第2巻)中央公論社 他に、講義時に紹介する。									
京大AL(アクティブラーニング)区分	主に振り返りと対話型授業。									
更新日付	2017/02/28 16:52									

シラバス参照

開講番号	A1-143
講義コード	1037
対象学生	国文3-2*
科目名	仏教学ⅡB
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	2
教職課程関連科目	

副題	親鸞思想とその現代的意義									
授業の到達目標	仏教学ⅡAで学んだ浄土仏教の基本と親鸞の基本思想の理解をもとに、さらに親鸞思想の普遍性と真実性、およびその現代的意義をより深く学ぶ。法然に出遇った親鸞は、結婚をし子どもをもうけながら仏道を歩み続ける中で、人生に対する洞察と思索が深められていくが、つねに、ごまかすことなく己れを見つめながら、仏のこころをしっかりと受け取っていく、その親鸞の生き方への理解を深めていく。さらに、「絶対他力」といわれる親鸞の宗教的深化の跡をたどる。									
授業の概要	親鸞の生涯をたどりながら、晩年に完成した『教行信証』等の著作や親鸞語録ともいえる『歎異抄』を通して、親鸞の仏教思想の深さを理解し、また、現代に生きる我々にとって、それがどのような意義を持つかを考察する。									
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の仏教展開 2. 浄土仏教史、特に親鸞の説く七祖 3. 法然と親鸞 4. 親鸞の生涯(1)出家と比叡山 5. 親鸞の生涯(2)六角堂参籠と法然 6. 親鸞の生涯(3)吉水時代と流罪 7. 親鸞の生涯(4)関東時代 8. 親鸞の生涯(5)京都帰還と晩年 9. 親鸞の人間観—煩惱具足 10. 親鸞の仏陀観—智慧と慈悲 11. 親鸞の思想『教行信証』から(1) 12. 親鸞の思想『教行信証』から(2) 13. 親鸞の思想『歎異抄』から(1) 14. 親鸞の思想『歎異抄』から(2) 15. まとめ—他力の意義 定期試験(筆記またはレポート) <p>*ただし10月、11月、12月にそれぞれ一回ずつ講義時間を「月例礼拝」に充てる。</p>									
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配分 (%)</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講態度、レポートなど</td> <td>20</td> <td>授業をよく聞いて、自発的な受講態度で臨むこと。ただ出席しているだけでは単位が取れない場合があります。</td> </tr> <tr> <td>定期試験(筆記またはレポート)</td> <td>80</td> <td>上述の受講態度が答案に発揮されていること。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分 (%)	評価の観点	受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で臨むこと。ただ出席しているだけでは単位が取れない場合があります。	定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。
評価項目	配分 (%)	評価の観点								
受講態度、レポートなど	20	授業をよく聞いて、自発的な受講態度で臨むこと。ただ出席しているだけでは単位が取れない場合があります。								
定期試験(筆記またはレポート)	80	上述の受講態度が答案に発揮されていること。								
授業時間外の学習について	講義の前に参考書を熟読し講義にそなえる。また、講義の後に自分のノートを読み返し、質問があれば講義時にする。 また、龍谷ミュージアム(仏教関連の展示館で特別展もあり)が西本願寺の前にあります。そこへ一度は行ってみてください。(担当教員によって異なりますが、レポートなどの提出によって何らかの考慮がなされる場合もあります。)									
学生へのメッセージ	親鸞の生き方を学びながら、自己の人生を常に振り返ってほしい。仏教に関する様々な啓蒙書・参考書が出版されているが、どれでも良いというわけではない。担当教員に相談することが望ましい。									
教科書	特に指定しない。									
参考書	平雅行『歴史のなかに見る親鸞』法蔵館 楳真円『親鸞(精読・仏教の言葉)』大法輪閣 その他、講義時に適宜紹介する。									
京大AI(アクティブラーニング)区分	主に振り返りと対話型授業。									
更新日付	2017/03/11 14:29									

シラバス参照

開講番号	A1-182
講義コード	1070
対象学生	大学2
科目名	仏教文学A
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	

副題	英語で読む仏教									
授業の到達目標	<p>仏教の教えそのものは千年以上前に記述されたものであり、言語表現も時代を色濃く反映している。日本における仏教書も数百年前のものであり、現代からすると意味のよくわからない記述も多い。</p> <p>一方で、仏教の教えは論理的に書かれており、何が書かれているかが理解できれば、現代にも通じる真理が説かれており、私たちの人生にとっても意味のある内容となっている。</p> <p>仏教経典や仏教書は、解説書や現代語訳も多く出されているが、難解な専門用語はそのまま記述され、わかりやすいものとは言えない。それを英訳するという作業は長く続けられており、私もそれに長く関わってきたが、他の言語に翻訳することは、意味をきちんとわかりやすく表現しなおすことである。</p> <p>英語という異文化の言語を通すことによって、よりよく理解でき、一方で英訳する場合の問題点を理解することによって、思想や思考において、言語がどのような役割を果たしているのかがわかる。</p>									
授業の概要	仏典、浄土経典のなかで最もドラマティックな内容である『仏説観無量寿経』の英訳本(プリントにて配布)をいっしょに読んでいく。									
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.『仏説観無量寿経』とは何か 2.王舎城の悲劇 3.阿闍世の出生の秘密 4.父王の悲劇 5.母の悲劇 6.釈尊の説法 7.浄土へのあこがれ 8.定善の観法1 9.定善の観法2 10.散善の行 上品 11.散善の行 中品 12.散善の行 下品 13.下品下生 14.流通分 15.観無量寿経をどう理解するか <p>定期試験</p>									
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配分(%)</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定期試験</td> <td>80</td> <td>講義の内容を理解しているか</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td>20</td> <td>講義に積極的に参加したか</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分(%)	評価の観点	定期試験	80	講義の内容を理解しているか	授業態度	20	講義に積極的に参加したか
評価項目	配分(%)	評価の観点								
定期試験	80	講義の内容を理解しているか								
授業態度	20	講義に積極的に参加したか								
授業時間外の学習について	テキストはあらかじめプリントにして配布するので、次回の講義範囲については、予習しておくこと									
学生へのメッセージ	仏教や経典が、身近に感じられるようになります									
教科書	なし									
参考書	講義時に指示									
京女AL(アクティブ・ラーニング)区分	対話型授業									
更新日付	2017/03/02 15:39									

シラバス参照

開講番号	A1-183
講義コード	1071
対象学生	大学2
科目名	仏教文学B
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	

副題	英語で読む仏教		
授業の到達目標	<p>仏教の教えそのものは千年以上前に記述されたものであり、言語表現も時代を色濃く反映している。日本における仏教書も数百年前のものであり、現代からすると意味のよくわからない記述も多い。</p> <p>一方で、仏教の教えは論理的に書かれており、何が書かれているかが理解できれば、現代にも通じる真理が説かれており、私たちの人生にとっても意味のある内容となっている。</p> <p>仏教経典や仏教書は、解説書や現代語訳も多く出されているが、難解な専門用語はそのまま記述され、わかりやすいものとは言えない。それを英訳するという作業は長く続けられており、私もそれに長く関わってきたが、他の言語に翻訳することは、意味をきちんとわかりやすく表現しなおすことである。</p> <p>英語という異文化の言語を通すことによって、よりよく理解でき、一方で英訳する場合の問題点を理解することによって、思想や思考において、言語がどのような役割を果たしているのかわかる。</p>		
授業の概要	英訳された親鸞の語録『歎異抄』(プリントにて配布)をいっしょに読んでいく。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.『歎異抄』とは何か 2.異端を嘆く 3.阿彌陀仏の本願 4.師への信順 5.悪人正機 6.聖道仏教と浄土仏教 7.誰のための念仏か 8.弟子一人ももたず 9.無碍の一道 10.念仏は 11.疑い 12.無義 13.本願ばかり 14.煩惱具足の身 15.英訳によって伝わるもの <p>定期試験</p>		
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点
	定期試験	80	講義の内容を理解しているか
	授業態度	20	講義に積極的に参加しているか
授業時間外の学習について	テキストはあらかじめプリントにして配布するので、次回の講義範囲については、予習しておくこと		
学生へのメッセージ	仏教や経典が、身近に感じられるようになります		
教科書	なし		
参考書	講義中に指示をする		
京女AL(アクティブ・ラーニング)区分	対話型授業		
更新日付	2017/03/02 15:44		

シラバス参照

開講番号	A1-184
講義コード	1072
対象学生	大学2
科目名	仏教文化A
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	

副題	現代日本文化の中の仏教		
授業の到達目標	受講者各自が、仏教が我々の生きる現代日本において、テレビや映画、インターネットなど、現代ならではの多種多様なメディアを通じて伝達されている事実を数多くの具体例によって認識した上で、現代日本の文化的潮流の中での仏教のありようについて、幅広い知識と透徹した見解を獲得することを目標とする。		
授業の概要	担当教員が授業計画に従って各時間毎の主題に関する資料を配布し、解説を加える。その際、文字資料と並び、視聴覚資料をも使用することによって、遠い過去ではない我々の「今現在の」社会で生じつつある「現在進行中の事象」としての、仏教的文化について幅広く知ってもらうことを狙っている。また、授業で扱う主題について、しっかりと自分自身に引き付けて主体的に考える姿勢を養うべく、広く受講者に発言を求める時間を取る。なお、関連分野として「仏教文学」や「現代と仏教」などについても学習することが望ましい。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 仏教とテレビ番組Ⅰ 3. 仏教とテレビ番組Ⅱ 4. 現代の尼僧たちⅠ 5. 現代の尼僧たちⅡ 6. 瀬戸内寂庵 7. 酒井雄哉 8. 五木寛之 9. 仏教とメディア芸術Ⅰ 10. 仏教とメディア芸術Ⅱ 11. 仏教とメディア芸術Ⅲ 12. 仏教と映画Ⅰ 13. 仏教と映画Ⅱ 14. 仏教と映画Ⅲ 15. 総括・テスト予告 定期試験		
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点
	定期試験	70	講義内容を忠実に踏まえた記述。
	授業への取り組み	30	主体的に「聴講」しているか。
授業時間外の学習について	受講者はあらかじめ、次回の授業の主題となる事柄について、関連する単語によるインターネット検索などを用いて情報を収集し、最低限の予備知識を身につけておくこと。授業後は、受講したことのある仏教学のノートなどによって関連知識を復習すること。		
学生へのメッセージ	毎回、できるだけ多数の受講者の発言・意見表明に一定時間を割くので、主体的に授業を「聴講」すること。指名されたにもかかわらず、私語や居眠りが原因で発言や意見表明ができないと担当者が判断した場合、氏名・学籍番号を確認した上で大幅な減点とする。とりわけ、私語による授業妨害に対しては断固たる処置を取る。		
教科書	なし		
参考書	『現代に生きる仏教的人間』上田義文、本願寺出版社		
京大AL(アクティブ・ラーニング)区分	本授業は対話型授業である。なるべく多くの出席者に担当者との対話、質疑応答を行なってもらう。		
更新日付	2017/03/08 19:54		

シラバス参照

開講番号	A1-185
講義コード	1073
対象学生	大学2
科目名	仏教文化B
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	

副題	現代日本と仏教の文化的接点	
授業の到達目標	我々の生活する現代日本において、仏教が、テレビやインターネットなど、現代ならではの多様なメディアを通じて伝達されている事実を数多くの具体例によってまず認識し、それを踏まえた上で、仏教と現代日本社会との文化的接点について、幅広い知識と総合的な見解を得ることを目標とする。	
授業の概要	担当教員が各時間毎の主題に関する資料を配布し、解説を加える。その際、文字資料と並んで、視覚資料をも使用することによって、遠い過去ではない我々の「今現在の」社会で生じつつある「現在進行形の事象」としての、仏教的文化現象について幅広く知ってもらうことを狙っている。また、授業で扱う主題について、しっかりと自身に引き付けて主体的に考える姿勢を養うべく、広く受講者に発言を求め時間を取る。なお、関連分野として「仏教文学」や「現代と仏教」などについても学習することが望ましい。	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 2. 京都市の観光寺院 i 3. 京都市の観光寺院 ii 4. 久遠寺と永平寺 5. 般若心経 i 6. 般若心経 ii 7. 般若心経の周辺 8. 真言 9. 陀羅尼 10. テレビの中の仏像 i 11. 地藏 12. テレビの中の仏像 ii 13. 巨大仏 i 14. 巨大仏 ii 15. 総括・テスト予告 定期試験	
評価方法	評価項目	配分(%) 評価の観点
	定期試験	70 講義内容を忠実に踏まえた記述。
	授業への取り組み	30 主体的に「聴講」しているか。
授業時間外の学習について	受講者はあらかじめ、次回授業の主題となる事柄について、関連する単語によるインターネット検索などを用いて情報を収集し、最低限の予備知識を身につけておくこと。授業後は、受講したことのある仏教のノートなどによって関連知識を復習すること。	
学生へのメッセージ	毎回、複数の受講者の発言・意見表明に一定時間を割くので、主体的に授業を「聴講」すること。指名されたにもかかわらず、私語や居眠りが原因で発言や意見表明ができないと担当者が判断した場合、氏名・学籍番号を確認した上で大幅な減点とする。とりわけ、私語による授業妨害に対しては断固たる処置を取る。なお、仏教文化Aの履修は前提としない。	
教科書	なし	
参考書	『現代に生きる仏教的人間』上田義文、本願寺出版社	
京女AL(アクティブ・ラーニング)区分	本授業は対話型授業である。なるべく多くの出席者に担当者との対話、質疑応答を行なってもらう。	
更新日付	2017/03/08 19:55	

シラバス参照

開講番号	A1-186
講義コード	1074
対象学生	大学2
科目名	仏教思想A
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	

副題	仏教思想の基本概念										
授業の到達目標	仏教を貫く基本的な概念や考え方に対して仏教思想家たちが重ねてきた思索について、なるべく多くの仏典テキストに実際に触れながら学び、仏教の思想的側面についての理解を深める。										
授業の概要	<p>仏教は長い歴史を持ち、そしてアジア社会を中心に広い地域に伝播してゆく過程で様々な部派・学派・宗派が成立して現在に至る。そこで説かれた思想内容は、実に多様である。しかしそのなかに、時代と地域を超えて受け継がれてきた基本的な概念や考え方がある。本講義では、仏教において導かれてきた仏・法・僧の三宝、そして無常・苦・無我といった基本的な概念が、仏教思想の展開のなかでどのように捉えられてきたのかを検討する。</p> <p>なお、ゲストスピーカーを招いてお話ししていただく機会を一回もうける予定である。</p>										
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 思想としての仏教 3. 仏教思想史概説(1):初期仏教と部派仏教 4. 仏教思想史概説(2):大乘仏教 5. 三宝総説 6. 三宝:仏 7. 三宝:法 8. 三宝:僧 9. ゲストスピーカーによる講義 10. 仏教の現実認識:苦 11. 仏教の現実認識:無常 12. 仏教の現実認識:無常——刹那滅論の展開 13. 仏教の現実認識:無我——初期仏教の無我論 14. 仏教の現実認識:無我——有と空 15. まとめ <p>定期試験</p>										
評価方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>配分(%)</th> <th>評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業内評価</td> <td>30</td> <td>授業に対する積極的な参加態度</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>70</td> <td>授業内容の理解を問う</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分(%)	評価の観点	授業内評価	30	授業に対する積極的な参加態度	試験	70	授業内容の理解を問う	
評価項目	配分(%)	評価の観点									
授業内評価	30	授業に対する積極的な参加態度									
試験	70	授業内容の理解を問う									
授業時間外の学習について	授業内で紹介する文献を読んで、仏典に実際に触れてほしい。										
学生へのメッセージ	仏教で説かれているのは、私たちのいま生きる現実の生に関わる事柄である、という姿勢で、仏教思想と向き合ってほしい。										
教科書	資料を配布する。										
参考書	『釈尊の教えとその展開 インド篇』, 本願寺出版社, 2008.										
京女AL(アクティブ・ラーニング)区分	対話型授業を行う。										
更新日付	2017/02/19 10:25										

シラバス参照

開講番号	A1-187
講義コード	1075
対象学生	大学2
科目名	仏教思想B
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	

副題	仏教思想の基本概念		
授業の到達目標	仏教を貫く基本的な概念や考え方に対して仏教思想家たちが重ねてきた思索について、なるべく多くの文献に実際にふれながら理解を深める。		
授業の概要	縁起の教説はシンプルであるようで奥深く、仏教思想家たちはそれを様々な仕方で見えさせることにより思想を展開してきた。本講義では、仏教思想の根幹としばしば評される縁起の概念がどのように発展してきたのかをまず考察する。そして後半では、より日常的で身近な、心や行為、善悪といった事柄が、仏教の思想伝統のなかでどのように捉えられたのかを検討する。その際のキーワードは、煩惱や分別、信、慈悲、他力、善悪などである。 なお、ゲストスピーカーを招いてお話していただく機会を一回もうける予定である。		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 縁起: 苦の成り立ち 3. 縁起: 存在の分析 4. 縁起: 空の思想——縁起と空 5. 縁起: 空の思想——実践的意義 6. 縁起: 唯識思想——塵よりなる世界 7. 縁起: 唯識思想——心の構造 8. ゲストスピーカーによる講義 9. 仏教における心のとらえ方: 煩惱など 10. 仏教における心のとらえ方: 分別など 11. 仏教における心のとらえ方: 信など 12. 仏教における業・行為の概念: 業の概念史 13. 仏教における業・行為の概念: 善悪など 14. 仏教における業・行為の概念: 他力など 15. まとめ 定期試験		
評価方法	評価項目	配分(%)	評価の観点
	授業内評価	30	授業に対する積極的な参加態度
	試験	70	授業内容の理解を問う
授業時間外の学習について	授業内で紹介する文献を読んで、仏典に実際に触れてほしい。		
学生へのメッセージ	仏教で説かれる事柄が、現実の生のなかで、どのような意義を持つのか、考えてもらいたい。		
教科書	資料を配布する。		
参考書	『釈尊の教えとその展開 インド篇』, 本願寺出版社, 2008.		
京女AL(アクティブ・ラーニング)区分	対話型授業を行う。		
更新日付	2017/02/19 10:25		

シラバス参照

開講番号	A1-180
講義コード	1068
対象学生	大学2
科目名	現代と仏教A
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	教科に関する科目(中-社会・高-公民)

副題	現代に生きる仏教						
授業の到達目標	作家や医者など様々な分野の人が書いた文章を仏教の視点から考えてみる。また仏教が現代を生き抜く智慧であることを宗教家ではなく他分野の人々が書いた文章で検証していく。						
授業の概要	最初に親鸞の基本的な考え方を確認した後に、作家等の文章を通して、仏教が現代を生きる智慧となることを確認していく。						
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.親鸞の基本的考え方 2.立教新座高校の校長が卒業生へ向けたメッセージ 3.『おれたちは家族』大原健志郎著 4.『夜回り先生の子育て論』水谷修著 5.『親鸞 いまを生きる』田口ランディ著 6.『看取り医者』平野国典著 7.『くらべない幸せ』香山リカ著 8.『人生からの贈りもの-医療と仏教からみつめるいのち』等 9.『医療の限界』小松秀樹著 10.ゲストスピーカー 11.『衆愚の時代』楡岡平著 12.『続 獄窓記』山本譲司著 13.『いまを生かされて』大谷光真著 14.鎌田實著 15.総括 定期試験						
評価方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">評価項目</th> <th style="text-align: center;">配分(%)</th> <th style="text-align: left;">評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td>受講態度等については最初の講義時に伝える。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分(%)	評価の観点	試験	100	受講態度等については最初の講義時に伝える。
評価項目	配分(%)	評価の観点					
試験	100	受講態度等については最初の講義時に伝える。					
授業時間外の学習について	できるだけ資料を前もって配布するので、あらかじめ読んで考えておくこと。資料の内容がどのように仏教と結びつのかよく考えておくこと。						
学生へのメッセージ	親鸞の思想がどのようなものであるか、私たちが生きていく上での指針を示すものであることを理解して欲しい。						
教科書	なし。						
参考書	授業の計画の中で挙げた文献を参考図書とする。						
京女AL(アクティブ・ラーニング)区分	対話型授業						
更新日付	2017/03/11 14:31						

シラバス参照

開講番号	AI-181
講義コード	1069
対象学生	大学2
科目名	現代と仏教B
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	
教職課程関連科目	

副題	現代に生きる仏教						
授業の到達目標	作家など様々な分野の人の文章を手がかりに仏教とは何かということを考えてみる。仏教は娑婆を生き抜く智慧であることを確認していく。						
授業の概要	最初に親鸞の基本的な考え方を確認し、作家等の文章を読んで仏教は何を説こうとしているのかを確認していく。						
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.親鸞の基本的な考え方 2.『輪廻と転生』石井玄一郎著 3.『個むか』美尚中著 4.『ひとりでは生きられないもぎのうち』内田樹著 5.『生きづらさの時代』上野千鶴子等 6.『ダウン症の娘を持つ母』読売新聞 7.『老人介護 常盤の娘』三好春樹著 8.『独裁入門』香山リカ著 9.『反・幸福論』佐伯啓思著 10.ゲストスピーカー 11.『不幸な国の幸福論』加賀乙彦著 12.『味わう人』『ある家訓』鷲田清一 13.『愚者の知恵』町田宗鳳著 14.『生死が自然でない時代に』大谷光真 15.総括 定期試験						
評価方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">評価項目</th> <th style="text-align: center;">配分(%)</th> <th style="text-align: left;">評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td>受講態度等については最初の講義時に伝える。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分(%)	評価の観点	試験	100	受講態度等については最初の講義時に伝える。
評価項目	配分(%)	評価の観点					
試験	100	受講態度等については最初の講義時に伝える。					
授業時間外の学習について	できるだけ資料を前もって配布するので、あらかじめ読んでおくこと。資料の内容がどのように仏教と結びつくのかを考えておくこと。						
学生へのメッセージ	親鸞の思想がどのようなものであるか、私たちが生きていく上での指針を示すものであることを理解して欲しい。						
教科書	なし。						
参考書	なし。						
京女AL(アクティブラーニング)区分	対話型授業						
更新日付	2017/03/04 12:34						

シラバス参照

開講番号	K2-140
講義コード	4598
対象学生	現社・法学2
科目名	倫理学
開講日程(学期・曜日・講時)	
担当者	
単位数	2
教職課程関連科目	教科に関する科目(中-社会・高-公民)

副題	よく生きること、正しく生きを考える									
授業の到達目標	幸福、権利、義務、平等、自由などの倫理学の基本概念および功利主義や義務論、社会契約説等の倫理学の基本的な枠組みと考え方を学ぶ。									
授業の概要	倫理学の基本的問題を概観することが目的である。功利主義、カント主義、現代的な社会契約説といった主要な倫理学上の立場の概略と歴史を理解し、また幸福、義務、権利、正義、平等、責任、ケア、美徳・悪徳といった倫理的問題で用いられる概念を把握することを目指す。 授業は基本的に講義形式で行うが、授業理解および小レポート作成等のため一定量のテキスト読解を求める。									
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション: 倫理学とは何か 2. 相対主義と主観主義: 善悪・正不正は社会・文化、あるいは個人によって違うのか 3. 心理学的利己主義: 人間は自分の利益しか考えないのか 4. 倫理的利己主義と功利主義: 自分の幸せか? みんなの幸せか 5. 功利主義と義務論の対立: 結果がよければよいのか、ルールが大事か 6. 幸福とは何か: 幸福についての最近の心理学 7. 義務と権利: 「権利」「義務」とは何か 8. 社会契約: なぜ道徳的であるべきか 9. メタ倫理学: 「よい」「正しい」は何を意味するか 10. 正義と平等: 正義とは何か、平等とは何か 11. 自由: なぜ言論の自由と個性は重要か 12. ケアの倫理: 人間関係や感情はどのように重要か 13. 美徳: 「よい人」とはどんな人か 14. 進化論と倫理: 道徳を進化の観点から見るとどうなるか 15. 人生の意味: 人生に意味はあるか 									
評価方法	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">評価項目</th> <th style="text-align: center;">配分(%)</th> <th style="text-align: left;">評価の観点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2回的小レポート</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td>レポートの様式、および課題を適切に把握し実施できているか</td> </tr> <tr> <td>期末レポート</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td>哲学的・倫理的な思考を身につけたか</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	配分(%)	評価の観点	2回的小レポート	40	レポートの様式、および課題を適切に把握し実施できているか	期末レポート	60	哲学的・倫理的な思考を身につけたか
評価項目	配分(%)	評価の観点								
2回的小レポート	40	レポートの様式、および課題を適切に把握し実施できているか								
期末レポート	60	哲学的・倫理的な思考を身につけたか								
授業時間外の学習について	毎回授業後に数時間の配布したテキストを読む必要がある。									
学生へのメッセージ										
教科書	なし。教材はオンラインで配布する。									
参考書	<p>ジェームズ・レイチェルズ『現実を見つめる道徳哲学』、晃洋書房、2003</p> <p>品川哲彦、『倫理学の話』、ナカニシヤ出版、2014</p> <p>その他授業中に指示する。</p>									
京大AL(アクティブラーニング)区分	振り返り、対話型授業、授業時間外学習、グループ学習									
更新日付	2017/02/13 15:42									